

かわはら
川原遺跡
(東郷町南瀬)

位置と環境

東郷町の市街地から東方へ約4km、南瀬地区の標高12~14mの水田地帯の中に位置する。一帯の地質はシラスを主体とする二次堆積層によって形成された低地で、遺跡の北側の安山岩質の独立した丘には宮崎神社が祀られている。

調査の経緯

県営ほ場整備事業が計画されたことに伴って、隣接する屋根添遺跡・宮ノ脇遺跡とともに東郷町教育委員会が確認調査を実施した。

遺構と遺物

13箇所のトレンチを設定して調査した結果、中世と縄文時代後期末から晩期初頭にかけての遺構や遺物が発見された。13トレンチでは内側に焼土を伴う石組炉と思われる遺構とそれを取り巻くような状態で土器や石器が出土している。出土した土器の型式か

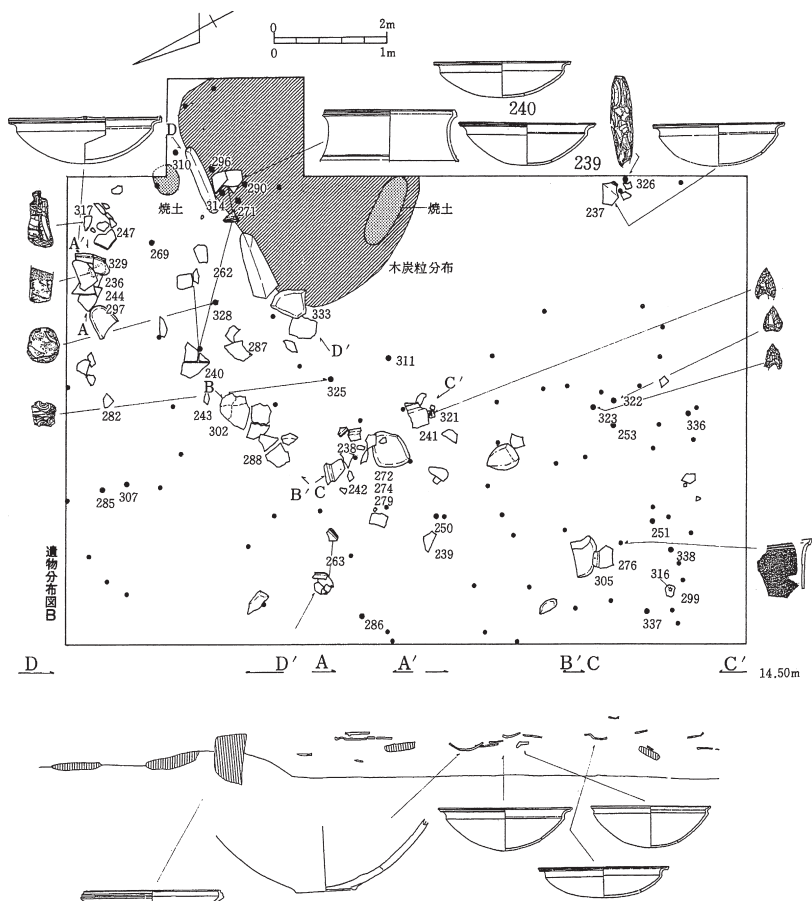


第1図 川原遺跡の位置

ら縄文時代後期末から晩期にかけての遺構であると考えられる。

石組炉と思われる遺構は一部礫が欠失しているが、細長い礫を直線的に配置した部分が残存しており、炉の内部に相当する部分では木炭粒や焼土が発見されている。トレンチ調査であったため、住居跡の有無は確認されていない。

石組炉の周辺からは、浅鉢形土器、深鉢形土器の



第2図 13トレンチの遺物出土状況

ほか石匙、石鏃、ノミ形石斧、砥石、石皿、磨石などの石器類が出土している。

特徴

川内川に隣接した標高12m程度の低地に位置し、立地条件や時期が加世田市の上加世田遺跡に共通する。

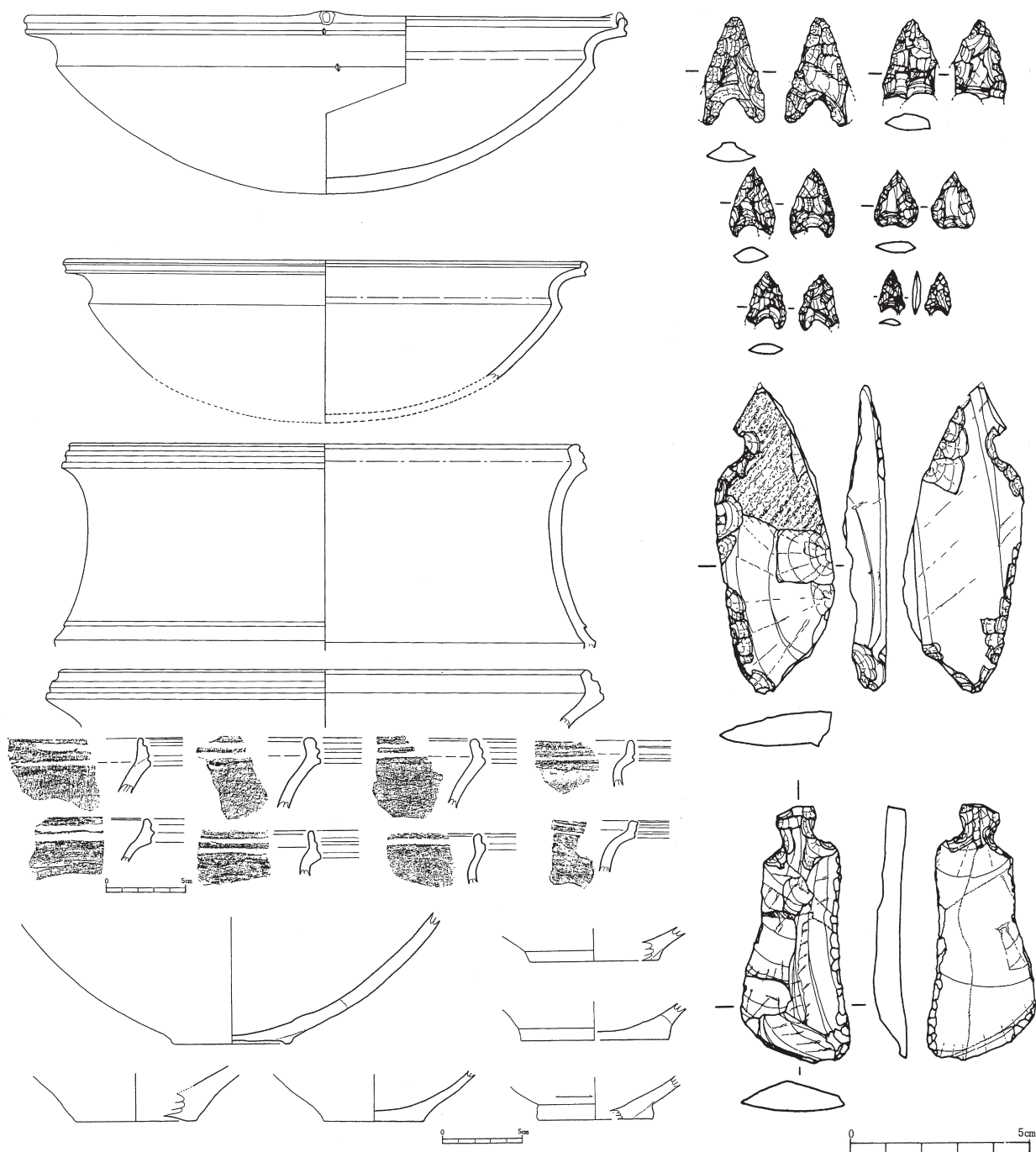
資料の所在

出土遺物は、東郷町教育委員会に保管されている。

参考文献

東郷町教育委員会1990「川原遺跡・屋根添遺跡ほか」『東郷町埋蔵文化財発掘調査報告書』2

(児玉健一郎)



第3図 川原遺跡の土器と石器